

平成 27 年 2 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 27 年 1 月 13 日

上場会社名 株式会社柿安本店 上場取引所 東
 コード番号 2294 URL <http://www.kakiyasuhonten.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 赤塚 義弘 (TEL) 0594 (23) 5500
 四半期報告書提出予定日 平成 27 年 1 月 13 日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 27 年 2 月期第 3 四半期の連結業績 (平成 26 年 3 月 1 日～平成 26 年 11 月 30 日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27 年 2 月期第 3 四半期	31,220	2.5	1,487	4.0	1,519	5.0	711	△3.2
26 年 2 月期第 3 四半期	30,471	△1.7	1,429	△16.1	1,447	△15.8	735	△11.0

(注) 包括利益 27 年 2 月期第 3 四半期 740 百万円 (△2.0%) 26 年 2 月期第 3 四半期 755 百万円 (△7.8%)

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27 年 2 月期第 3 四半期	60.05	—
26 年 2 月期第 3 四半期	59.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27 年 2 月期第 3 四半期	19,099	13,292	69.6
26 年 2 月期	18,170	13,026	71.7

(参考) 自己資本 27 年 2 月期第 3 四半期 13,292 百万円 26 年 2 月期 13,026 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26 年 2 月期	—	0.00	—	40.00	40.00
27 年 2 月期	—	0.00	—	—	—
27 年 2 月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有・無

3. 平成 27 年 2 月期の連結業績予想 (平成 26 年 3 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	44,727	5.1	2,671	23.5	2,686	22.0	1,472	29.0	124.27

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有・無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有・無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無

② ①以外の会計方針の変更 : 有・無

③ 会計上の見積りの変更 : 有・無

④ 修正再表示 : 有・無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照下さい。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期3Q	12,446,700株	26年2月期	12,446,700株
② 期末自己株式数	27年2月期3Q	600,555株	26年2月期	600,470株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期3Q	11,846,198株	26年2月期3Q	12,378,638株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において、当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済・金融政策を背景に輸出企業の業績や雇用情勢が改善するなど緩やかな回復基調となりました。その一方で消費税率引き上げ後の個人消費の低迷や円安に伴う物価上昇懸念など景気の先行きは不透明な状況にあります。

食関連業界におきましては、連続した台風上陸や大雨などの天候不順や円安による原材料価格の上昇も加わり依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは店内調理による出来たてのおいしさの強化へ料理研修を徹底するとともに社内キャンペーンによる接客販売の向上を図るなど、基本の強化を通じ『おいしさ、育む。柿安』に取り組んでまいりました。

出退店、改装につきましては、「口福堂」25店による和菓子事業の展開を中心に計29店を出店いたしました。また、16店を改装し、6店の閉鎖を行いました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は31,220百万円(前年同期比2.5%増)、営業利益は1,487百万円(同4.0%増)、経常利益は1,519百万円(同5.0%増)、四半期純利益は711百万円(同3.2%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

毎年恒例の「三重県フェア」「創業祭」や定例企画「いい肉の日」において「柿安牛」「プレミアムあぐ〜」や「プリンシヤスボーク」などオリジナル商品の拡販・浸透強化に注力するとともに「あか牛」商品の育成に努めました。

また、主力大型店「小田急町田精肉店」や「新百合ヶ丘エルミロード精肉店」の改装を行いました。

この結果、当事業の売上高は10,603百万円(前年同期比0.6%増)、セグメント利益は851百万円(同5.3%増)となりました。

(b) 惣菜事業

カキフライをはじめグラタン・弁当など、牡蠣をテーマにした商品やワインに合うサラダ・惣菜セットなどの季節商品、ローストビーフの拡販により集客を図りました。

出店につきましては、タカシマヤフードメゾン岡山ダイニングを出店いたしました。

この結果、当事業の売上高は9,128百万円(前年同期比0.4%増)、セグメント利益は715百万円(同7.7%減)となりました。

(c) 和菓子事業

今秋収穫の新小豆によるおはぎの新商品「おはぎヌーボー」や冬の定番商品「いちご大福」の早期投入により季節の演出を向上させるとともに三重県フェア限定商品「伊勢茶だんご」やどら焼の新商品「いちごクリームどら焼」「ホワイトチョコどら焼」などにより品揃えの強化を進めました。

この結果、当事業の売上高は4,633百万円(前年同期比25.1%増)、セグメント利益は267百万円(同77.5%増)となりました。

(d) レストラン事業

ビュッフェレストラン「三尺三寸箸」において美容栄養アドバイザー石坂優子氏監修による季節ごとの身体にやさしい食材を使用した「キレイをつくる彩旬コーナー」やカキフライやローストビーフの特別プレートの提供などによりメニューの強化を図るとともに好評のモーニングビュッフェ企画を新たにランチ対応に変更し利便性の向上を行いました。

また、グリル業態においても定例の肉の日企画のステーキメニューの強化や季節商品の刷新を図りました。

この結果、当事業の売上高は4,370百万円(前年同期比5.2%減)、セグメント利益は252百万円(同14.0%減)となりました。

(e) 食品事業

「黒毛和牛サーロインステーキ煮」をはじめギフト商品の刷新により年間最大の販売機会である歳暮ギフト商戦への強化を図りました。また、「牛すじカレー」「豚角煮カレー」などレトルトカレーシリーズの全面刷新、まぜご飯の素シリーズや「帆立うすだき」の試食販売充実による自家需要向け商品の拡販を行いました。

この結果、当事業の売上高は2,484百万円(前年同期比1.2%減)、セグメント利益は348百万円(同15.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ929百万円増加し、19,099百万円となりました。

流動資産は600百万円増加し、10,946百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が906百万円減少したものの、売掛金が1,138百万円、仕掛品が332百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は328百万円増加し、8,153百万円となりました。その主な要因は、建物及び構築物が116百万円、差入保証金が58百万円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ662百万円増加し、5,806百万円となりました。

流動負債は783百万円増加し、4,816百万円となりました。その主な要因は、買掛金が362百万円、未払消費税等が278百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は121百万円減少し、990百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が127百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ266百万円増加し、13,292百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が237百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成26年4月9日に発表いたしました「平成26年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載しております予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,021	6,115
受取手形及び売掛金	2,441	3,579
商品及び製品	247	298
仕掛品	124	457
原材料及び貯蔵品	167	190
繰延税金資産	221	269
その他	121	34
貸倒引当金	△0	—
流動資産合計	10,345	10,946
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,345	3,461
土地	2,282	2,282
その他（純額）	694	752
有形固定資産合計	6,321	6,496
無形固定資産		
その他	119	117
無形固定資産合計	119	117
投資その他の資産		
投資有価証券	196	243
繰延税金資産	246	261
差入保証金	732	790
その他	207	243
投資その他の資産合計	1,383	1,539
固定資産合計	7,824	8,153
資産合計	18,170	19,099
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,222	1,584
未払金	575	500
未払法人税等	528	297
未払費用	926	1,082
賞与引当金	363	548
役員賞与引当金	31	27
その他	384	774
流動負債合計	4,032	4,816

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
固定負債		
長期借入金	532	405
退職給付引当金	16	4
資産除去債務	464	477
その他	98	103
固定負債合計	1,112	990
負債合計	5,144	5,806
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	11,498	11,736
自己株式	△817	△817
株主資本合計	13,025	13,263
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	29
その他の包括利益累計額合計	0	29
純資産合計	13,026	13,292
負債純資産合計	18,170	19,099

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日)
売上高	30,471	31,220
売上原価	16,110	16,177
売上総利益	14,361	15,043
販売費及び一般管理費	12,931	13,556
営業利益	1,429	1,487
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	1	1
受取ロイヤリティー	—	7
保険解約返戻金	5	—
その他	22	33
営業外収益合計	31	45
営業外費用		
支払利息	9	7
その他	5	6
営業外費用合計	14	13
経常利益	1,447	1,519
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除売却損	6	6
減損損失	55	171
その他	3	0
特別損失合計	64	178
税金等調整前四半期純利益	1,382	1,341
法人税、住民税及び事業税	681	709
法人税等調整額	△34	△79
法人税等合計	647	630
少数株主損益調整前四半期純利益	735	711
四半期純利益	735	711

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	735	711
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	29
その他の包括利益合計	20	29
四半期包括利益	755	740
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	755	740
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,535	9,090	3,704	4,609	2,514	30,454	17	30,471	—	30,471
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,200	12	108	21	264	1,607	—	1,607	△1,607	—
計	11,735	9,103	3,812	4,631	2,779	32,061	17	32,079	△1,607	30,471
セグメント利益 又は損失 (△)	808	775	150	293	303	2,331	△3	2,328	△898	1,429

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△898百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△931百万円及びその他調整額33百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」、「レストラン事業」セグメント及び「全社資産」において、店舗設備及び東京本部施設移設に伴う減損損失をそれぞれ5百万円、26百万円、22百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、55百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成26年3月1日至平成26年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,603	9,128	4,633	4,370	2,484	31,220	—	31,220	—	31,220
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,129	14	83	46	233	1,507	—	1,507	△1,507	—
計	11,733	9,142	4,716	4,417	2,717	32,728	—	32,728	△1,507	31,220
セグメント利益	851	715	267	252	348	2,435	—	2,435	△948	1,487

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。
 2. セグメント利益の調整額△948百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△980百万円及びその他調整額32百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「精肉事業」、「惣菜事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失をそれぞれ5百万円、20百万円、14百万円、131百万円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において、171百万円であります。